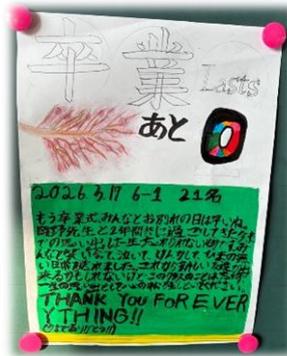




宇宙船帰還時のパラシュート開発に携わるピコ・ノートン。いざ宇宙船が帰還するという日の朝、身支度を整えるピコに息子たちが声をかけます。「パパがカッコつけてるよー!!」「なんでネクタイしてんのパパー」ピコは答えます。

ネクタイを締める理由なんてのは1コしかねえ
仕事が無事に終わった後に“緩める”ためだ
(小山宙哉『宇宙兄弟』第12巻)

卒業にあたり、この言葉を思い浮かべました。



【17日朝、6年生教室に】

卒業の日の朝、6年生の教室に貼られた子どもたちの手作りカレンダーには、「みんなで笑い合って、泣いて、けんかして、ひまの無い日常生活を送れました……Thank you for everything !!」と書かれていました。

6年間、楽しいこともあれば、友達とけんかをしたこともあった。やりたくなくてもやらざるを得ないこともあった——。それでも卒業式の瞬間、ふっと心が浄化され、全ての経験が大切な宝物に変わります。この瞬間を味わうために、6年間があるといっても過言ではないでしょう。

卒業式 式辞 — 詳細版 —

職人の世界では、弟子は師匠の技を盗めと言われます。そして師匠は弟子に背中教えます。どちらも「伝える・伝えられる」の矢印は「年長の者から年下の者に」です。

6年生は、この1年間、全校集会ではいつも、だれよりも早く体育館に入場し、静かに座って待っていました。子どもたちも、私たち教職員も、いつもその背中を見ながら入場していました。背中が6年生の責任や矜持を語っているようでした。私は、「年下の者」の背中に教えられました。

そのような、やるべきことをきちんとやり遂げてきた6年生が、初めて「どうしてもこれをやりたい」と訴えてきたのが、先日、屋上に上がって行った「6年生の主張」でした。

担任から子どもたちへは「やりたいのなら、自分たちで計画をきちんと立てなさい」と指示をしました。雨が降った場合はどうするのか。もし「高いところはこわい」と言った子がいればどうするのか——。いろいろなケースを想定し、子どもたちは企画を進めていきました。

担任と私とは、「もし少々至らないところがあっても、最後はさせてあげましょう。初めて『自分たちでやりたい』と言い出したことだから。」と決めていました。

実施できてよかったと、その時も、今も思っています。



【「6年生の主張」
ブログはこちら】

卒業する子どもたちに伝えたいことはたくさんあって、何を語ればよいのか、どんな言葉を贈ればよいのか、式辞は2日前までまとまりませんでした。何を言っても伝え切れないような気がして。それでも、何か月も前から、伝えたい一つの言葉だけは決まっていました。式辞の言葉を繰り返します。

本山小学校 最後の卒業生があなたたちで本当によかった。

卒業、本当におめでとう。

